全労協fax情報 | **NO.1731** | 2016年8月22日（月）
全労協事務局発行
TEL 03-5403-1650

許すな！
伊方原発再稼働、脱原発テント強制撤去

全ての原発を廃炉に！　安倍政権の暴虐行為糾弾！

8月11日、四国電力は伊方原発3号機を再稼働させた。そして一昨日未明（8月21日）、2011年3.11福島原発事故から経産省前で政府の原発政策に抗議して立ち続けた脱原発テントを暴力的に強制撤去した。参議院選挙に勝利した安倍政権の強権政治を露骨に示している。許されない蛮行であり、政府を糾弾する。

四国電力伊方原発は豊後水道に突き出た半島の付け根に存在し、熊本地震で誰もが知ることとなった「中央構造線断層」の上に建設されている。日本に存在する原発の中で、静岡・浜岡原発と共にもっとも危険な原発の一つである。福島第一原発事故から5年が経過し、安倍政権の原発推進策を後ろ盾に、規制委員会は安全神話を開き直り、経済界･電力会社は「原子力ムラ」を復活させている。

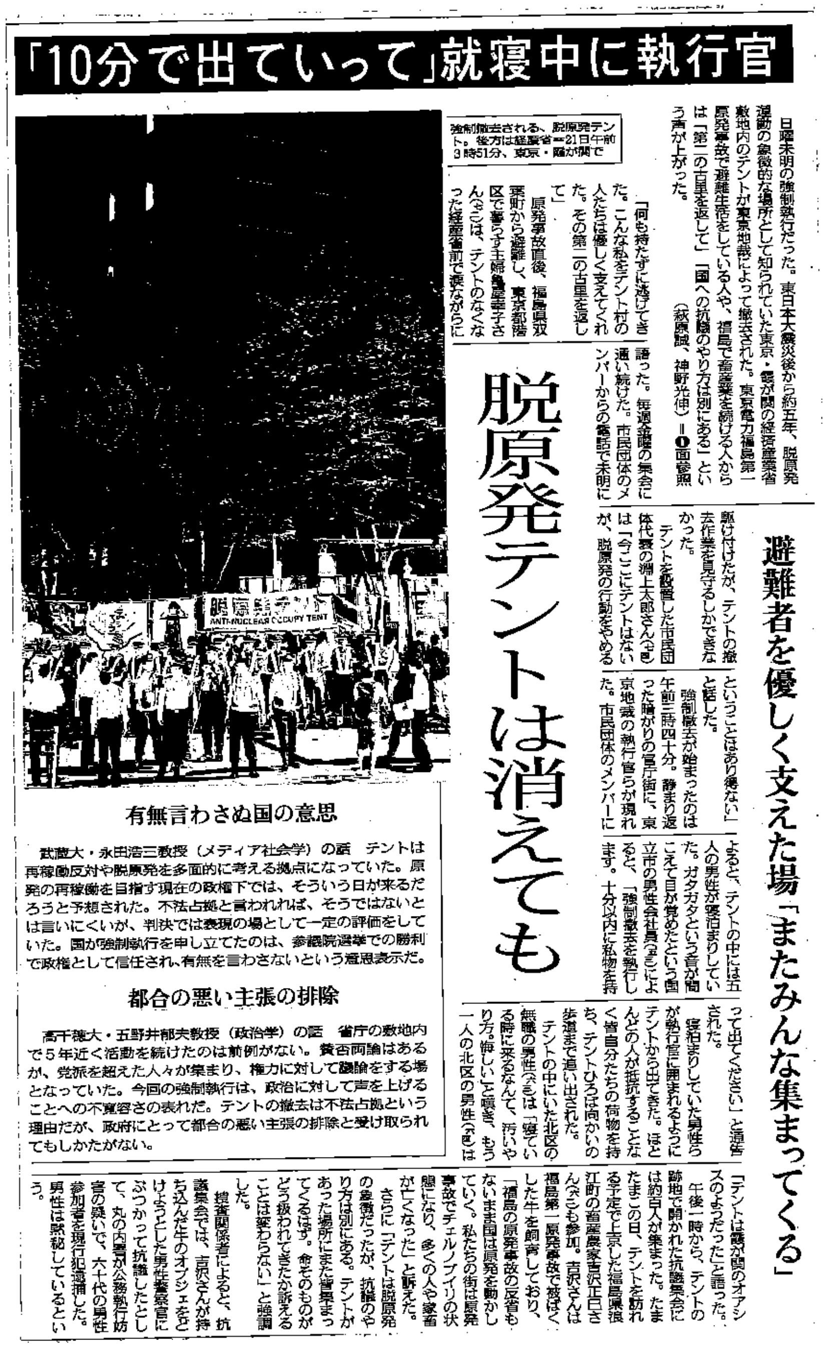
福島では未だ除染が進まず、変えることも生活することのできない避難生活を余儀なくされている。そればかりか海には放射能汚染水を垂れ流し続けているのである。政府・原子力ムラはすでに事故は過去のものとして強引に再稼働を進めようというのである。

伊方原発が事故を起こしたときには多くの住民は逃げ場さえない、袋のネズミのように放射能汚染の中に閉じ込められることになる。参院選と同時に行われた鹿児島知事選では脱原発を掲げた三反園氏が当選し、川内原発の一時停止と避難計画の練り直しに言及したばかりである。高浜原発の運転を差し止めた大津地裁山本善彦裁判長が判示したように原発の安全は誰も保障できないのである。そして事故の際は地方の人と土地、環境を破壊するのである。決して許されない。

テント破壊のため夜討ちをかけて闇夜の蛮行

安倍政権に司法・最高裁も結託して脱原発のための拠点となっていた経産省前テントの破壊を強行した。沖縄の民意を無視し、警察を使った暴力的権力の行使を見れば予想されたこととは云え、夜中に誰もいないところで暴力をふるうというヤクザまがいのやり口には改めて憤りを覚える。

しかし、このような強権的方法によって労働者市民の「原発いらない」という声を葬り去ることはできない。原爆による被爆を経験し、福島事故を経験している日本の労働者市民は「原発いらない」と1000万署名を行い、大規模な集会を開催して「原発反対!」を表明してきた。そして核兵器の廃絶のために大きな運動を積み重ねてきている。そして、電気の使用量削減を実現してた。政府の「電力不足」という口実は全く根も葉もないものに過ぎないのである。



「10分で出ていって」就寝中に執行官

日曜未明の強制執行だった。東日本大震災後から約五年、脱原発運動の象徴的な場所として知られていた東京・霞が関の経済産業省敷地内のテントが東京地裁によって撤去された。東京電力福島第一原発事故で避難生活をしている人や、福島で畜産業を続ける人からは「第二の古里を返して」「国への抗議のやり方は別にある」という声が上がった。（萩原誠、神野光伸）＝❶面参照

強制撤去される、脱原発テント。後方は経産省＝21日午前3時51分、東京・霞が関で

脱原発テント
ANTI-NUCLEAR OCCUPY TENT

脱原発テントは消えても

避難者を優しく支えた場「またみんな集まってくる」

「何も持たずに逃げてきた。こんな私をテント村の人たちは優しく支えてくれた。その第二の古里を返して」

原発事故直後、福島県双葉町から避難し、東京都葛飾区で暮らす主婦亀屋幸子さん（七二）は、テントのなくなった経産省前で涙ながらに語った。毎週金曜の集会に通い続けた。市民団体のメンバーからの電話で未明に駆け付けたが、テントの撤去作業を見守るしかできなかった。

テントを設置した市民団体代表の淵上太郎さん（七四）は「今ここにテントはないが、脱原発の行動をやめるということはあり得ない」と話した。

強制撤去が始まったのは午前三時四十分。静まり返った暗がりの官庁街に、東京地裁の執行官らが現れた。市民団体のメンバーによると、テントの中には五人の男性が寝泊まりしていた。ガタガタという音が聞こえて目が覚めたという国立市の男性会社員（五三）によると、「強制撤去を執行します。十分以内に私物を持って出てください」と通告された。

寝泊まりしていた男性らが執行官に囲まれるようにテントから出てきた。ほとんどの人が抵抗することなく皆自分たちの荷物を持ち、テントひろば向かいの歩道まで追い出された。

テントの中にいた北区の無職の男性（六三）は「寝ている時に来るなんて、汚いやり方。悔しい」と嘆き、もう一人の北区の男性（六四）は「テントは霞が関のオアシスのようだった」と語った。

午後一時から、テントの跡地で開かれた抗議集会には約百人が集まった。たまたまこの日、テントを訪れる予定で上京した福島県浪江町の畜産農家吉沢正巳さん（六二）も参加。吉沢さんは福島第一原発事故で被ばくした牛を飼育しており、「福島の原発事故の反省もないまま国は原発を動かしていく。私たちの街は原発事故でチェルノブイリの状態になり、多くの人や家畜が亡くなった」と訴えた。

さらに「テントは脱原発の象徴だったが、抗議のやり方は別にある。テントがあった場所にまた皆集まってくるはず。命そのものがどう扱われてきたか訴えることは変わらない」と強調した。

捜査関係者によると、抗議集会では、吉沢さんが持ち込んだ牛のオブジェをどけようとした男性警察官にぶつかって抗議したとして、丸の内署が公務執行妨害の疑いで、六十代の男性参加者を現行犯逮捕した。男性は黙秘しているという。

有無言わさぬ国の意思

武蔵大・永田浩三教授（メディア社会学）の話　テントは再稼働反対や脱原発を多面的に考える拠点になっていた。原発の再稼働を目指す現在の政権下では、そういう日が来るだろうと予想された。不法占拠と言われれば、そうではないとは言いにくいが、判決では表現の場として一定の評価をしていた。国が強制執行を申し立てたのは、参議院選挙での勝利で政権として信任され、有無を言わさないという意思表示だ。

都合の悪い主張の排除

高千穂大・五野井郁夫教授（政治学）の話　省庁の敷地内で５年近く活動を続けたのは前例がない。賛否両論はあるが、党派を超えた人々が集まり、権力に対して議論をする場となっていた。今回の強制執行は、政治に対して声を上げることへの不寛容さの表れだ。テントの撤去は不法占拠という理由だが、政府にとって都合の悪い主張の排除と受け取られてもしかたがない。

東京新聞　2016年8月22日

今こそ、全ての原発を廃炉にし、再生可能な自然エネルギーへ政策を変更することが求められているのである。

安倍政権の暴走を止めるために更に大きな闘いを準備する必要がある。9月22日(木)、代々木公園で「原発いらない1000万人アクション」に参加しよう。

（裏面参照）

FAX情報　1731号　裏面

東京新聞　2016年8月12日（夕刊）

東京新聞
夕刊
中日新聞東京本社
東京都千代田区内幸町二丁目1番4号
〒100-8505　電話03(6910)2211

伊方不安置き去り再稼働

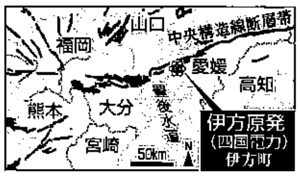
近く走る断層帯

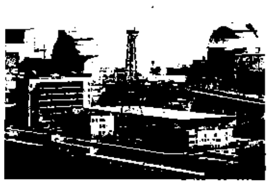
プルサーマルの3号機

避難計画に疑問

四国電力は十二日午前、伊方原発3号機（愛媛県伊方町）を再稼働させた。東京電力福島第一原発事故を踏まえ策定された原子力規制委員会の新規制基準に適合した原発では九州電力川内1、2号機（鹿児島県）、関西電力高浜3、4号機（福井県）に次ぎ五基目。川内1号機の再稼働から一年たち政府は原発活用を加速させたい考えだが、伊方原発近くには長大な活断層「中央構造線断層帯」が通り、熊本地震を機に活発化する懸念や、事故時の避難計画の実効性に不安も根強い。

＝仮処分申し立て次々❷面





伊方原発3号機㊨＝12日午前、愛媛県伊方町で

伊方3号機の稼働は二〇一一年四月に定期検査で停止して以来。今後作業が順調に進めば、十三日朝に核分裂反応が安定的に持続する臨界に達し、十五日に発電と送電を開始。営業運転は九月上旬の見込み。高浜は司法判断で運転差し止め中のため、プルトニウム・ウラン混合酸化物（MOX）燃料によるプルサーマル発電を行う国内唯一の原発となるが、プルサーマルは制御棒の効きが悪くなるともされ、安全面の心配もある。

十二日、再稼働に反対する住民らが抗議する中、伊方3号機の中央制御室では四国電社員らが計器などを確認。午前九時、スイッチを操作し制御棒を引き抜いて原子炉を起動させた。四国電の佐伯勇人社長は「安全確保を最優先に発電再開へとステップを進める」とコメントを出した。中村時広愛媛県知事は記者会見し「考えられる最高の安全対策が施されている。福島と同じことが起こることはない」と強調。世耕弘成経済産業相は「電力の一層の安定供給の確保に向けた重要な前進」と談話を出した。

伊方原発は細長い佐田岬半島の付け根にあり、事故時に半島の住民約五千人が孤立する恐れがあるなど避難上の課題や、南海トラフ巨大地震対策が不十分との指摘もある。中央構造線断層帯の活発化を危ぶむ住民らが松山、大分、広島の各地裁で運転差し止めを求める仮処分を申し立てるなどしており、今後司法判断で停止する可能性もある。

3号機は昨年七月に規制委の審査を通過し、同十月に伊方町長、中村知事が再稼働に同意した。今年六月にはMOX燃料十六体を含む百五十七体の燃料集合体が原子炉に入った。再稼働は七月二十六日の予定だったが一次冷却水循環ポンプのトラブルが同十七日に判明し、遅れた。

伊方原発　愛媛県伊方町にある四国電力の加圧水型軽水炉。「日本一細長い」とされる佐田岬半島の付け根に位置する。計3基あり、1977年に運転を開始した1号機（56万6000キロワット）は、多額の安全対策費がかかるなどとして四国電が今年5月に廃炉とした。82年に運転を始めた2号機（56万6000キロワット）は現在、定期検査中。3号機（89万キロワット）は94年に運転を始めた。半径30キロ圏には山口県の一部が含まれ、豊後水道を挟んで対岸の大分県は重大事故時の伊方町民の避難先となっている。

周辺自治体に広がる懸念・反対

解説　日本一細長い半島に位置し、事故時には住民避難も収束作業も支援も困難が予想される四国電力伊方原発3号機（愛媛県）が再稼働した。九州から四国を通って本州に至る活断層「中央構造線断層帯」に沿って発生した四月の熊本地震後、豊後水道を挟んだ大分県各地の議会で、再稼働への懸念や反対を表明する動きが広がっている。その一方、暑い日が続く中でも四国の電力需給は安定。無理をしてまで原発を動かす大義は見当たらない。

いくら地震や津波の対策をしても、原発のリスクはなくならない。一般的な工業施設なら、事故の影響は限定的。広範囲かつ長期にわたる影響が出る点で、原発はやはり別格と言える。

何度、伊方の地を訪れても、雄大な美しい光景に圧倒される。その半面、尾根筋を走る一本の国道を除けば、道は細く険しく、岩肌ももろい。事故に備えて進めている道路拡幅は未完成のまま。住民避難計画では海を渡って大分などに避難するというが、現実的と受け止めている住民には出会ったことがない。地震が起きたら道は寸断される可能性があるためだ。「港に行く前に、閉じ込められる」と多くの人が語った。

険しい半島の岩場を切り崩し、埋め立てて造った原発。敷地に余裕はない。事故時の対策拠点も必要最低限の施設で、休むスペースはなく、トイレも仮設が一つあるだけ。福島のような高濃度汚染水問題が起きても、保管するためのタンクの置き場も見当たらない。

「新規制基準を満たせば、事故はある程度で止まる」。そんな危うい仮定の上で、伊方原発の「安全」は成り立っている。（山川剛史）

玉露園
飲んで美味しく
料理のかくし味でも大好評！
こんぶ茶
http://www.gyokuroen.co.jp

紙面から

タイで連続爆発4人死亡 ❷

夏休み「永遠平和」考える ❸

熊本 いちずに息子を思い ❿

TPP反対大統領でも ❷

クリントン氏が経済演説で「米大統領になってもTPPには反対」と強調した。（AP）

小説3　シネマ4